



①産業水道委員会行政視察報告・党市議団研修会報告

②伝統文化としての「下之郷三頭獅子」

《部内資料》

メールアドレス：masahiro3660@mac.com 上田市下之郷 473-1 TEL38-4452・FAX38-7935・携帯 09015542698 【わたなべ正博後援会】

### 愛知県安城市の農業政策を学ぶ

大部分が原野だった安城市は明治13年(1880)に明治用水(新水路)が完成し開墾され水田に生まれ変わったというまちです。

日本デンマークといわれた安城市も豊田市が隣ということもあって自動車関連産業が盛んになり、農家(販売農家)人口は平成27年度2086人(上田市は2257人)ということでした。

「条例制定」農業が支える安全で安心な暮らしづくり

平成17年に「安城市農業基本条例」を制定し平成18年に「安城市食料農業交流基本計画」を策定し平成20年度に「アグリライフ構想」事業をスタートした。

この事業の基本理念は「市民が農を身近に感じて楽しむこと」と



安城市アグリライフ支援センターで説明を受ける。敷地内には「市民農園」が整備され楽農人を育成している。

してアグリライフⅡ農を軸に自然と共生する新しいライフラインを実践する、楽農人が1人でも多く増えるような施策の展開を目指しているということです。

上田市でも「条例制定を

(仮称)上田市食料・農業・農村基本条例」制定を、平成24年9月議会で提案しています。

上田市の地域特性などを生かしたポリシーを明確にした農業・農村のあり方について「基本理念」や「推進政策」を示す「条例」が必要と考えます。

### 岐阜県高山市の「高山市海外戦略」

高山市は。平成27年度の観光入込数は434万人余でその内外国人は36万人余1割近い、この数は3年連続で伸びているとのこと。産業構造は第三次産業が76.8%と観光で支えられている高山市です。



高山市の「古い街なみ」は外国人観光客も多く人気スポットです。平成27年度の観光消費額は820億円

昭和61年「国際観光モデル地区」に指定される。

1984年当時の運輸省が打ち出した施策で、日本が世界に誇れる魅力に富んだ観光地で、交通機関や宿泊施設など受け入れ態勢も整備されていながら従来外国人観光客の少なかつた地区の中から高山市が指定されました。同年、高山市は「国際観光

くらし・困りごと  
なんでも相談  
気軽に声をかけてください

メールOK 090-1554-2698

#### わたなべ正博のノート

- 1日 上田駅モーニングスピーチ
- 2日 塩田地区行政懇談会「挨拶」
- 3日 定期検診「生協診療所」
- 4日 地方議会議員研修会「京都」5日
- 5日 【地域活性化と行政の役割】
- 6日 原水禁止世界大会「記念式典」
- 7日 河川の草刈り
- 8日 「破産宣言」が出来るかの相談
- 9日 浅間池代表会
- 10日 農業政策議員連盟視察
- 11日 終日会議
- 12日 別所丸子線改良期成同盟会
- 13日 土地改良事業懇談会
- 14日 くぼしゅん支援 【山の日】
- 15日 大六の花市「東塩田小学校」
- 16日 新盆まわり
- 17日 下之郷班対抗ソフトボール大会
- 18日 ・盆踊り
- 19日 上田駅前街演「終戦記念日」
- 20日 生活相談
- 21日 党市議団会議
- 22日 長野市で会議「終日」
- 23日 【9月議会一般質問本格準備開始】
- 24日 永年党員伝達式
- 25日 「新池」の草刈り
- 26日 議会会派代表者会議
- 27日 「安心の蛇口」お披露目式
- 28日 党全県地方議員会議「25日
- 29日 ・あいそめの湯
- 30日 森林・林業・林産業活性化促進議員連盟長野県連絡会議
- 31日 音楽鑑賞
- 1日 モルティイ塩田街演
- 2日 浅間池の草刈り「本年最後だ・・・」
- 3日 上田駅モーニングスピーチ
- 4日 ・選挙学校
- 5日 【議会運営委員会一般質問受け付け開始】

【9月議会が9月5日に開会します】

【8月】

(8月8日現在)

都市宣言」し、翌年「官・民」による「飛騨高山国際協会」を設立した。



観光都市の出発点は昭和45年の国鉄キャンペーン「ディスカバー・ジャパン」「心のふるさと飛騨高山」として全国的に脚光を浴びる

「海外からの誘客促進」「海外への販売促進」「海外との交流推進」を目指す

時代に対応した高山市海外戦略は、平成24年度～平成26年度の計画を見直し、平成27年度～平成31年の5年間の計画を策定した。取り組みの方向は「海外からの誘客促進」「海外への販売促進」「海外との交流推進」を目指す姿とし、取り組みを進めている。

### 競争ではなく協力

担当課は「海外戦略課」で、職員が共有しているこ

とは「先人たちの取り組みがあり今がある。今できることを精一杯取り組む」「民間との連携は必須で最前線で先頭に立ち一緒に活動する」「海外ニーズの把握と、この地域ならではの文化を知ってもらう」「広域連携が必要。他都市の魅力も同時にアピールする・・・競争ではなく協力」。

### 【田園回帰1%戦略】 地元にと仕事を取り戻す

藤山浩氏（島根県中山間地域研究センター研究統括監・島根県立大学連携大学院教授）の講義は、8月5日京都であった。

未来に向けて「このままでいいのか」と真剣に人口のあり方を考え直す時代に私たちはいる。ただし、人口問題を考えるにあたっては、「抽象的」で「小手先」そして「拙速」なものであってはならない。

この問題を地域のあり方とにも考えること、まずは、「市町村消滅論」の検証。そしてこの半世紀にわたるこの国の地域や国土のあり方をしっかり振り返り、今始まっている「田園回帰」。

地方でどのような人口の流れが生じているのかを検証し、田園回帰に向けた今後の人口ビジョンどう立てていくのか、具体的に「あと何組」定住を増やせばいいのか、毎年人口の1%ずつあらたに取り戻している地域や自治体、それに対応する所得の取り戻し戦略を学び考える。工場誘致や観光開発といった派手な外貨獲得策ではなく、地域内経済循環の取り戻しによる地道な進め方を考える。

そして、田園回帰を支える人口と所得を保障する社会システムを考える。定住や暮らしを支える拠点やネットワーク構造も小規模・分散性をつなぐ循環型が求められる。というものでした。

2015年度にとりまとめた上田市の「人口ビジョン」と人口減少を克服する「総合戦略」を今回の講義を参考に検証したい。

### 下之郷三頭獅子舞

塩田公民館発行の「ふるさと塩田村々の歴史」に元禄4年（1691年）に来光寺池（上田市古安曾）の嵩上大改修の工事が実施され、その地固めに下之郷村から28人が出向き、獅子舞を奉納されたと記録されているので、下之郷の獅子舞はそれ以前に下之郷村農耕者の五穀豊穡、無病息災を祈念して生島足島神社に奉納されてきたと考えられます。



三頭一組で踊る形のは東日本に広く分布し、上田はその西の境界に位置している。（練習は述べ2週間）

初代会長に私が就き今に至っています。一時期途絶えた獅子舞を

復活させ、7年連続で獅子を舞いました。また、ダメだとされていた女子のお囃子での参加の実現、東京の日本青年館で舞うなど、先人から受け継いだかけがえのない獅子舞を文化財として発信してきました。



毎年7月最後の日曜日に獅子舞が行われます

保存会の主軸メンバーは青年です。地域のエネルギー集団としての期待・・・

これを後世に伝えていくことが現代に生きるものの使命として、確かな演技の習熟、原型が壊されぬ演出に心がけると同時に、地域ぐるみで郷土の伝統文化の価値を知り、保存継承の意味を理解して祭り文化としての「ふるさと心」を、今後の地域づくりですべて活かしていきたい。